

2025年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 15 日

1. 職名・氏名 准教授・加藤健太郎

2. 学位 学位 博士、専門分野 中国経済論、授与機関 福井県立大学、授与年 2004 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「中国経済論」（2 単位）2 年次配当
②内容・ねらい （内容）1.中国経済がどのように成長を遂げてきたのか、2.現在どのような課題に直面していて、それをどのように解決しようとしているのか、3.中国の成長が世界や日本にどのような影響を与えているのか、に焦点を当て中国経済を体系的に学ぶ。 （ねらい）1.中国経済の基本的な知識を得ること、2.中国が抱える課題について知ること、3.中国の動向を特に日本や世界との関わりの中で捉えて理解すること、を通じて中国経済に関するニュースなどを自ら説明できるようになることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・講義は「ねらい」に対応させて、「中国経済の基礎知識」、「中国経済の抱える問題」、「中国経済の対外関係」の3部で構成 ・既存の教科書等は使用せず、最新の内容を取り入れたパワーポイント資料で説明 ・学生のノート作成を必須とし、パワーポイント資料とは別にレジュメを配布 ・実態について理解を深めるために映像資料も使用 ・基礎知識を確認するため、单元ごとに小テストを5回実施 ・期末課題として情報収集力、分析力、表現力の向上を目的とした「説明資料」の作成を要求
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「中国の企業と経済」（2 単位）3 年次配当
②内容・ねらい （内容）1. 中国経済をみる上で知っておくべきこと、2. 中国で注目される産業や企業、3. 世界や日本（企業）における中国の位置づけ、に焦点を当て、中国経済を産業・企業のフィルターを通して体系的に学ぶ。 （ねらい）1.中国経済の基本的な知識を得ること、2. 中国の産業や企業の実態について知ること、3. 中国の動向を特に日本や世界との関わりの中で捉えて理解すること、を通じて中国経済に関するニュースなどを自ら説明できるようになることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・講義では「中国経済論」履修者が少なかったことから、「中国（経済）の基礎知識」から説明し、中国経済・企業の現状や日本経済・企業との関りを意識した内容に ・既存の教科書等は使用せず、最新の内容を取り入れたパワーポイント資料で説明 ・実態について理解を深めるためにニュースなどの映像資料も使用 ・社会人になってからの自身のキャリアパスや、ものの観方・考え方及び中国との関わり方を考えるため、本学卒業生を含む各分野の最前線で活躍する方をゲストスピーカーとして招聘 ・ゲストスピーカーによる講義内容は次のとおり。 「情報の収集・分析方法」（福井新聞社）、「国際機関と戦後の国際秩序」（元国連職員）、「海外事業、中国・台湾ビジネスの実態」（株）村田製作所、（株）日華化学・本学院卒）、「経済「経済安全保障（国内対策・技術流出）」（福井県警）、「地方自治体の国際交流、外国人政策」（鯖江市）、「日本の外国人政策」（弁護士・福井県議会議員）、「中国の変化・最新情勢」（北京理工大学・卒業生）。

・ゲストスピーカーの講義テーマとして、昨年度同様の「日中関係」、「経済安全保障」のほか、参院選などで注目された「外国人政策」を新たに追加 ・ゲストスピーカーの講義後には、毎回、講義のポイントと自ら学んだ点についてレポート提出を要求 ・期末課題として情報収集力、分析力、表現力の向上を目的とした「説明資料」の作成を要求 【ゲストスピーカー8人】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 一般教育「経済学」（オムニバス、1/15 コマ及び取りまとめ担当）1 年次配当
②内容・ねらい （内容）経済学科教員がそれぞれの担当する専門科目の概要についてオムニバス形式で講義を行うことで、経済学の基礎的な知識を網羅的に学ぶ。 （ねらい）1. 経済学に関する基本的な考え方を理解できる、2. 経済学が現実をみる上でどのように役立っているか理解できる、3. 経済学が社会でどのように利用されているか理解できる、4. 経済に関わる書籍をバランス良く読みこなす力を身につけるようになることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・講義を行った「中国経済論」については、1 コマで概要を理解するために、1 中国の多様性、2 中国経済の世界における位置づけ、3 米中対立、の 3 つに分けて講義 ・特に現在注目される「③米中対立」については、表面的な事象にとどまらず、3 つの背景から分析し、理解を深めた ・この科目は、全学の学生に対して、経済学の基礎概念を幅広く理解してもらうことを意図しており、経済学部学生に対しては、加えて、学部教員とその専門分野の紹介を兼ねている ・取りまとめ担当として、スムーズな運営を図るべく、講義順序等の検討、シラバスの作成、学生向け説明資料の作成、教員向けマニュアルの作成のほか、講義担当者への事前連絡、成績のとりまとめなどをおこなった ・特に成績のとりまとめにおいては、各担当者で評価のバラツキがないよう、検討を重ねた
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「基礎ゼミ（中国を知る）」（2 単位）2 年次配当
②内容・ねらい （内容）中国がアジア・世界においてますます存在感を高める中、感情論を超えて中国を客観的に捉え、個人、企業、日本が、これから中国とどう付き合っていくべきかを考える。 （ねらい）1.中国(経済)に関する知識を深める、2.中国の動向を日本・世界や自分との関わりの中で考える、3.自分の考えをほかの人に伝える、ことを通じて、大学生として必要な「情報収集能力」、「分析力」、「表現力」を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・中国(経済)に関する知識を深めるためにテキストを輪読。毎回、発表者のみならず、司会者、討論者、書記の役割も順番に分担 ・中国とどう付き合っていくか考えるために、毎回ディスカッション ・説明能力を養うために、毎回自分の意見をまとめ発表 ・ゼミの最終回に、それぞれの問題意識に基づき発表会を開催、全員投票で MVP を決定 ・ディスカッションの活性化を図るため、課外で BBQ を実施
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「外書講読Ⅱ（中国語）」（2 単位）3 年次配当
②内容・ねらい （内容）1 中国語の文章の読解、2 読解のポイントやテーマの背景事情などを解説、3 取り上げられた内容について議論、4 中国語会話の練習。 （ねらい）中国語の読解力、会話力を高めるだけでなく、中国の社会事情や文化・流行への理解を深めることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・読解のみならず、社会に出てからも継続的に学び、業務等で使用できるようにするため、中国語の会話も重視し、毎回2人1組で会話を練習 ・最新の中国の社会事情や文化・流行への理解を深めるため、毎回、自ら関心のある動画を受講者が背景などと併せて発表し、視聴
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「演習Ⅰ（中国経済論）」（2単位）3年次配当
②内容・ねらい （内容）中国がアジア・世界においてますます存在感を高める中、感情論を超えて中国を客観的に捉え、個人、企業、日本が、これから中国とどう付き合っていくべきかを考える。 （ねらい）1. 中国(経済)に関する知識を深める、2. 中国の動向を日本・世界や自分との関わりの中で考える、3. 自分の考えをほかの人に伝える、ことを通じて、社会人として必要な「情報収集能力」、「分析力」、「表現力」を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・中国(経済)に関する知識を深めるためにテキストを輪読。毎回、発表者のみならず、司会者、討論者、書記の役割も順番に分担 ・中国とどう付き合っていくか考えるために、毎回ディスカッション ・説明能力を養うために、毎回自分の意見をまとめ発表 ・「ゼミナールコンテスト」に向けた準備を目的に、夏休み（後期前）に合宿を実施 ・各チームの自主性を尊重し、進捗状況の確認と助言以外の運営を一任 ・「卒論」準備のための「期末レポート（4千字程度）」を課したほか、「演習Ⅱ」・「卒論」に向け、「研究テーマ発表会」を実施 ・ディスカッションの活性化、親睦を図るため、課外で随時レクレーションを実施
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「演習Ⅱ（中国経済論）」（2単位）4年次配当
② 内容・ねらい （内容）中国がアジア・世界においてますます存在感を高める中、感情論を超えて中国を客観的に捉え、個人、企業、日本が、これから中国とどう付き合っていくべきかを自分が社会人になってからを想定して考える。 （ねらい）1. 演習Ⅰで修得した中国(経済)に関する知識を深める、2. 中国の動向を日本・世界や社会人になってからの自分との関わりの中で考える、3. 自分の考えをほかの人に伝える、ことを通じて、社会人として必要な「情報収集能力」、「分析力」、「表現力」を身につける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・「卒業論文」作成に向けた中間発表会を一人につき2回開催し、指導教員及び他のゼミ生からの質疑応答も実施 ・「台湾研修」（2025年9月22～27日）を実施。本学提携校「台中科技大学」を訪問し、講義で発表、ディスカッションを実施。日台の文化的・経済的関係を学んだほか、海外人材として将来の海外駐在を視野に、日台交流協会台北事務所、台湾企業のほか、日系専門商社「台湾長瀬」、県内企業「台湾日華化学」、外資系監査法人「KPMG 台湾」を訪問 「台湾研修の準備」として、 ・台湾に関する基礎調査（地理、歴史、政治体制、経済状況、日台経済など） ・訪問先（大学、企業）に関する基礎調査 - 以上の内容を取りまとめ、冊子『台湾の歩き方』（62ページ）を作成 ・元「台湾日華化学」宮本総経理をゲストスピーカーとする「特別講義（ゼミ）」を開催 ・台中科技大学の留学生3人をゲストスピーカーとする「台湾事情発表・交流会」を開催 ・台中科技大学でのプレゼン資料を担当ごとに作成 ・現地訪問する企業に対し、事前に質問事項を取りまとめて送付 ・ゼミ生全員が「卒業論文」を作成 ・キャリアコンサルタント（卒業生）を招き、「キャリアデザイン講座」を開催 【ゲストスピーカー2人】

2)その他の教育活動
内容 ・ 福井商工会議所グローバルビジネス委員会（＋会頭、専務理事）にて講演（2025 年 3 月） 「トランプ 2.0 の米中関係にどう向き合うか」 ・ 武生高校「学問発見講座」講師（10 月） 「大学での学び ～なぜ経済学を学ぶのか」 ・ 北京理工大学外国語学院との学術交流協定に向けた「特別講義」（Web）を実施予定（3 月）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③ その他論文（査読なし） 「第 15 次五カ年計画の策定と中国の経済政策」（単著）『Warm Topic』Vol.188.2026.MAR/APR 、北陸 AJEC 北陸環日本海経済交流促進協議会（脱稿済み。2 月発刊予定）	【1 本】
④学会発表等	【 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
アジア政経学会 全国大会（慶應大学）	
北東アジア学会 30 周年記念出版『21 世紀の北東アジア』検討会議	

5. 地域・社会貢献活動

北陸 AJEC（北陸環日本海経済交流促進会議）企画部会委員（2024 年 6 月～現在）
「げんでんネクサス懇談会」ネクサス委員（2024 年 9 月～現在）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
国際委員会（2025 年 4 月～現在に至る）
オープンキャンパス委員（2024 年 4 月～現在に至る）

台中科技大学大学院との「ダブルディグリー制」に向け、先方学科長との意見交換を実施（9月23日、台中市）

(3)学内行事への参加

オープンキャンパス（経済学部　とりまとめ）

(4)その他、自発的活動など

- ・「ゼミナールコンテスト」への参加、運営
- ・福井県立大学同窓会理事
- ・World Cafe 中国・台湾関連行事への参加
- ・日中友好協会行事への参加